

〔研究ノート〕

中国のことばと文化・社会（二）

文 楚 雄*

目 次

序

第1部 中国文化の伝承と漢字

第1章 漢字の成立と文化の伝承

第1節 漢字成立の伝説

第2節 漢字の発達

第3節 漢字の構成 形・音・意味

第4節 漢字の表意機能と表音機能

第5節 漢字による文化の伝承（以上、前号）

第2章 漢字啓蒙教育と文化の伝承

第1節 漢字啓蒙教育による中国文化の伝承

第2節 《三字経》の漢字啓蒙教育と文化の伝承
（以上、本号）

第2章 漢字啓蒙教育と文化の伝承

第1節 漢字啓蒙教育による中国文化の伝承

中国の社会においては、栄えた時代の時にも衰えた時代の時にもその文化が絶えることなく延々に続けられている。海を隔ててもチャイニーズ社会においてはチャイニーズ文化が変わることなく延々に伝承されている。チャイニーズ社会の文化がなぜ時間や場所に関係なく延々に継承されているのだろうか。これは漢字があるからなのだ。漢字があってからこそできたのだと私は考える。漢字は中国文化伝承の重要な道

具であり、中国文化の伝承に大きな役割を果たしている。また、漢字自身も中国文化そのものである。

中国人は先ず漢字を覚えなければならない。この漢字習得は中国人にとっては極めて重要であり、極めて難しいことでもある。中国語の漢字は最新の辞書には85,000字も収録し、一生涯かかって習得できないぐらいの量となっている。しかし、日常生活や読み書きに使う量はそれほど多くない。最小限の量だけでいける。この最小限の必要量は最短の時間で覚える必要がある。日常的によく使われている漢字は大体2,500字ぐらいである。この2,500字ぐらい覚えておけば、日常的な読み書きには対応できる。さらにその中の1,000字ぐらいは最小限の量と言える。この最小限の漢字の習得及びそのテキストの開発・研究は古代から行われてきた。その研究成果の代表的なものとしては《三字経》、《千字文》、《百家姓》、《弟子規》をあげることができる。特に1500年ぐらい前の梁時代に作ったテキスト《千字文》や800年ぐらい前の宋時代に作ったテキスト《三字経》は漢字習得啓蒙教材として千年も使い続けられてきた。今日現在も使われている。これらの漢字習得啓蒙教材の良さは千年も使い続けてきたこの長い歴史で証明されている。

* 立命館大学産業社会学部教授

本研究はこれらの漢字習得啓蒙教材の構成の良し悪しについて論じるのではなく、これらの漢字習得の啓蒙教材が文化的にどんな役割を果たしているのかなどについて考察していくのである。即ち、漢字習得啓蒙教材が漢字習得に大きな役割を果たしていると同時に、教材に使われていることばが子供たちにどんな文化、どんな思想、どんな歴史、どんな道徳などを教えているのかを考察していきたい。さらに、啓蒙教材に使われていることばが中国文化の伝承や植付けにどのような役割を果たしているのかも見ていきたいのである。中国文化が時間・場所に関係なく伝承されている原因の一つはこの漢字習得の時点にあると私は考える。最小限の一千字ぐらいの漢字で編んだ《千字文》、《三字経》などを使い、子供達に最小限の漢字を習得させると同時に、知らず知らずのうちにそれらのことばで表される中国の思想、歴史、価値観、道徳などの文化を覚えさせ、中国文化の伝承や植付けを行うのである。漢字習得啓蒙教材は中国文化の伝承に極めて大きな役割を果たしているのである。

しかし、これまでにこのような視点から漢字習得啓蒙教材を論じたものがあまりなかったのである¹⁾。本研究はこの《三字経》、《千字文》、《弟子規》などの漢字啓蒙教育教材を丁寧に分析しながら、これらの教材に使われることばがどんなものを伝えているのか、中国文化の伝承にどんな役割を果たしているのかについて論じていきたい。漢字啓蒙教育における中国文化の伝承が本研究のねらいである。チャイニーズは中国本土にしようと、海などを隔てて地球の遠いところにとようと、世界のどんなところにいても、中国の伝統的な思想、価値観、生活様式などの文化を保っている。これはなぜか。

筆者は中国人が漢字啓蒙教育の時から知らず知らずのうちに中国の文化を教育され、価値観などを植え付けられたのが原因の一つだと考える。子供の時に一旦焼き付けられたものはそう簡単に取り除くことができない。中国の文化は漢字啓蒙教育の段階から伝承されているのだと私は思う。

第2節 《三字経》の漢字啓蒙教育と文化の伝承

1. 《三字経》の構成

《三字経》は南宋の王応麟（1223 - 1296）が編著したと言われている。明、清時代に増補されたりして、1928年に章炳麟²⁾が再度校正していた。《三字経》が成立して800年近く経つが、中国史上に最もよく売れていた本の一つだと言われている。《三字経》は本文だけでなく、注釈本も類型本もたくさん出ている。《三字経》研究のホームページ³⁾では170余種類の異本、注釈本、類型本を集めている。類型本としては、例えば、《女兒三字経》、《仏教三字経》、《道教三字経》、《医学三字経》、《中国歴史三字経》⁴⁾などがある。また中国だけでなく、日本、朝鮮、ベトナムにも異本、類型本がたくさんある。日本の《本朝三字経》⁵⁾、朝鮮の《真理便讀三字経》⁶⁾、ベトナムの《漢文喃字対照三字経》⁷⁾などがその代表的なものである。90年代に入ってから更に多くの新類型本が出た。例えば、シンガポールでは《三字経》の英訳本⁸⁾も出しており、台湾では《新訳三字経》⁹⁾、中国では《漫画三字経》、《新三字経》、《品德三字経》、《科学三字経》¹⁰⁾なども出版されている。ちょっとしたブームのような感じもする。ところで《三字経》は禁書となった時期もある。極左思想や政策が支配していた時であった。その時期には《三字経》が示

している伝統、価値観、儒教倫理、モラルなどが古いものとして否定されていた。この極左思想支配の結果、今日の中国社会の伝統価値観や儒教倫理やモラルの低下に繋がったと見ることができる。今日の中国社会の犯罪が多くなっていることも伝統価値観や儒教倫理やモラルが否定されたことから生まれたと見ることができる。社会や人々のモラルなどを回復させるには《三字経》などに示している伝統思想や儒教倫理などが有用であることが再び認識されている。

《三字経》は三字で一小句となり、六字で一大句となる。全部で188大句、1,128字となっている。韻も踏んで読みやすく覚えやすい構造となっている。

2. 《三字経》における教育思想と中国文化

(1), 父母の教育責任

《三字経》では昔の例を挙げて、父母が子供に対し教育をしなければならないことを主張している。

1. 養不教、父之過¹¹⁾。

(子供を養うには教えをしなければ、父親の過ちとなる。)

2. 竇燕山、有義方。教五子、名俱揚¹²⁾。

(竇燕山という人は子供の教育には正しい方法があり、五人の子供を教え、五人とも出世した。)

3. 昔孟母、拊鄰処。子不学、断機杼¹³⁾。

(昔孟子の母は学校の隣を選んで住むことにし、子供が勉強を怠ると、怒って機杼を断ったという。)

2～3が示しているように、歴史上の人物を例にして父母には教育の責任があることを教えている。

(2), 教育の重要性や教授法

《三字経》では子供に対する教育の重要性や教育の方法などについて論じている。

4. 人之初、性本善。性相近、習相遠。

(人間が生まれた当初には人間の本性はもともと善である。もともとの本性は相似かよっている。しかし、環境や教育によって習性はかなり違ってくる。)

5. 苟不教、性乃遷。

(もし教え導かなければ、子供の善なる本性も変わってしまう。)

6. 教之道、貴以專。教不嚴、師之惰。

(教えの方法としては大事なことは専一するようにさせることである。教えるには厳しくしなければ、教師の怠りである。)

7. 凡訓蒙、須講究。詳訓詁、明句読。

(幼い児童を教え導くには、物事を調べきわめなくてはいけない。字句の意味を詳しく解釈し、句読の箇所を明らかにしなければならない。)

8. 人遺子、金滿贏。我教子、唯一経。

(人は子供に箱一杯の黄金を遺すであろうが、私は子に教えとして、ただ経書を遺すだけである。)

4～8が示しているように教育の重要性や教育の方法などを教えている。

(3), 児童勉学の誘導・啓発

《三字経》では子供が勉学に励まなければならない道理や価値観を教えている。

9. 子不学、非所宜。幼不学、老何為。

(子供が勉強しないのは、よろしいことではない。幼くして学ばなければ、老いて何ができるのだろうか。)

10. 玉不琢、不成器。人不学、不知義。

(美質の玉でも磨かなければ、役に立つ

器と成らない。優れた素質を持つ人でも学ばなければ、道理や知識がわからない。）

11. 犬守夜，鶏司晨。苟不学，曷為人。

（犬は夜に家を守り、鶏は夜明けを告げる。動物でも人のために役に立っているから、人間が学ばなければ、人間として称することができるのだろうか。）

12. 蚕吐糸，蜂釀蜜。人不学，不如物。

（蚕は絹を作る糸を吐き、蜂は蜜を醸す。人間が学ばなければ、これらの昆虫にも及ばないのだ。）

13. 幼而学，壮而行。上致君，下泽民。

（幼くして学び、壮年になってその知識を生かす。上は君主のために力を尽くし、下は黎民に潤しをもたらす。）

14. 勤有功，戲無益。戒之哉，宜勉力。

（勤勉努力して学べば成功につながる。戯れ遊べばなんの益も無い。常に戒めなければならぬ。常に勉学に励まなければならぬ。）

9～14が示しているように、犬などの動物や虫を取り上げ、人間が学ばなければ動物にも及ばないなどの道理を子供に教えている。

（4）、苦学の手本

《三字経》では孔子のような聖人が学問に勤めた例、幼少の時から勉学に励んだ結果、大官僚に出世した例、年取ってから学ばない例、幼少から賢い上に勉学に勤めた例、賢い女子の例などを手本として示し、男子児童の目指す目標としている。

15. 昔仲尼，師項橐。古聖賢，尚勤學¹⁴⁾。

（昔孔子は七歳の項橐を師としていたという。古の聖賢ですらこのように学問に勤めたのである。）

16. 趙中令，読魯論。彼既仕，学且勤¹⁵⁾。

（宋代中書令の趙普は常に孔子の《論語》を読んでいた。彼は宰相になってからも勤勉に学び続けたのである。）

17. 披蒲編，削竹簡。彼無書，且知勉¹⁶⁾。

（漢の路温舒郷相は幼い時蒲を綴り合わせてそこに書籍を写し、また漢の公孫弘郷相は竹簡を削って書籍を写して学に励んだという。彼らは書物がなかったが、努力して学ぶことを知っていたのである。）

18. 頭懸梁，錐刺股。彼不教，自勤苦¹⁷⁾。

（晋の孫敬は眠気に襲われることを恐れ、頭の毛を梁につないで読書したという。また戦国時代の蘇秦は眠くなると錐を股に刺して学び続けたという。彼らは監督の師がなく、自ら勤め努力したのである。）

19. 如囊螢，如映雪。家雖貧，学不輟¹⁸⁾。

（晋の車胤は螢の明りで読書し、晋の孫康は雪の明りで読書していたという。彼らは家が貧しかったが、学びをやめることがなかった。）

20. 如負薪，如挂角。身雖勞，猶苦卓¹⁹⁾。

（漢の朱買臣は薪を負いながら読書し、隋の李密は牛飼をしながら、牛の角に漢書を付けて読書していたという。彼らは苦勞しながら出世することにつとめたのである。）

21. 蘇老泉，二十七。始發憤，読書籍²⁰⁾。

（宋の蘇洵は二十七歳にして始めて發憤して書籍を読み、名を成したのである。）

22. 彼既老，猶悔遲。爾小生，宜早思。

（蘇洵は老いてからも学びを始めるのが遅かったことを後悔した。君たち後生の

- 者は早く学問を始めなければならない。)
23. 若梁灝, 八十二。対大廷, 魁多士²¹⁾。
(宋代の梁灝は八十二歳で, 朝廷の進士試験に臨み, 多くの受験者を勝ち抜き, 魁首となった。)
24. 彼既成, 衆称異。爾小生, 宜立志。
(梁灝は老いてから名を成し, 人々は皆素晴らしいと称賛した。君たち後生の者は, 早く志を立てなければならない。)
25. 瑩八歳, 能詠詩。泌七歳, 能賦棋²²⁾。
(南北朝時代の祖瑩は八歳で詩を詠じることができ, 唐代の李泌は七歳で棋の詩を賦することができた。)
26. 彼穎悟, 人称奇。爾幼学, 当效之。
(祖瑩と李泌はとても英悟であり, 人々はその才知の優れていることを称賛した。君たち幼くして学ぶ者は彼らに倣わなければならない。)
27. 蔡文姬, 能弁琴。謝道韞, 能詠吟²³⁾。
(後漢の蔡文姬は琴などの音楽才能が優れ, また晋時代の謝道韞は詩賦を作ることができた。)
28. 彼女子, 且聰敏。爾男子, 当自警。
(蔡文姬と謝道韞は女性で, とても聡明であったが, 君たち男子は彼女らに学び自ら戒めなければならない。)
29. 唐劉晏, 方七歳。挙神童, 作正字²⁴⁾。
(唐の劉晏は七歳にして神童に挙げられ, 朝廷翰林院の正字官となった。)
30. 彼雖幼, 身已仕。爾幼学, 勉而致。
(劉晏は幼かったが, もう朝廷に仕えていた。君たち幼くして学ぶ者は, 努力して学べば, 同様に成功に至る。)
31. 有為者, 亦若是。
(有為の人は皆このように努力したので

- ある。)
- 15 ~ 31 が示しているように多くの出世した名人の実例を取り上げ, 彼らに学ぶように教えている。
3. 《三字経》における儒教倫理と中国文化
(1), 親孝行の儒教倫理
《三字経》では中国の儒教倫理, 道徳として最も重視されている親孝行について実例を挙げて教えている。
32. 香九齡, 能温席。孝於親, 所当執²⁵⁾。
(後漢の黄香は九歳で親が寝る前にその席を暖めてやった。親孝行をする場合, 黄香が執る行動を学ぶべきだ。)
33. 首孝弟, 次見聞。知某数, 識某文。
(人間が先ずやるべき事は親に孝を尽くし, 年長者を尊敬することである。その次に知識や見聞を広め, 数や文を学んでゆく。)
- (2), 年長者尊敬の儒教倫理
《三字経》では兄などの年長者に尊敬しなければならない倫理道徳を教えている。
34. 融四歳, 能讓梨。弟於長, 宜先知²⁶⁾。
(漢の孔融は四歳にして兄に梨を譲っていたという。弟は兄などの年長者を尊敬することは, 先ず知らねばならない。)
- (3), 人間関係の儒教倫理
《三字経》では交友や礼儀の重要性を教えている
35. 為人子, 方少時。親師友, 習礼儀。
(人の子である者は若い時には, 優れた師につき, よい友人と交わり, 礼儀を習わなければならない。)
- (4), 社会秩序の儒教倫理
《三字経》では社会秩序を維持する為の最も

重要な規範である「三綱」、「五常」、「十義」を教えている。

36. 三綱者、君臣義、父子親、夫婦順。

（三綱とは、君臣の義即ち臣下は君主に服従すること、父子の親愛即ち子は父に服従すること、夫婦の和順即ち妻は夫に服従することをいう。）

37. 曰仁義、礼智信。此五常、不容紊。

（仁・義・礼・智・信、この五つの道徳は常に遵守すべき、乱してはならない。）

38. 父子恩、夫婦従。兄則友、弟則恭。

（子は父母の恩に報い、婦は夫に服従し、兄は弟を愛し、弟は兄を尊敬しなければならない。）

39. 長幼序、友与朋。君則敬、臣則忠。

（年長者と年少の者の間には順序があり、朋友には信と誼をもって交わり、君は臣を尊重し、臣は君に忠を尽くさなければならない。）

40. 此十義、人所同。

（この十義は人が皆守るべきものである。）

（5）、血縁関係の儒教倫理

《三字経》では九族の血縁倫理を教えている。

41. 高曾祖、父而身。身而子、子而孫。

（高祖父母が曾祖父を生み、曾祖父母が祖父を生み、祖父母が父を生み、父母が私を生み、私は子を作り、子は孫を作る。）

42. 自子孫、至玄曾。乃九族、人之倫。

（高祖父、曾祖父、祖父、父、我が身、子、孫、曾孫、玄孫は、九族と呼び、人の世代の順である。）

（6）、名誉に関する儒教倫理

《三字経》では名誉についての儒教倫理を教

えている。

43. 揚名声、顯父母。光於前、裕於後。

（自分の名声を上げ、父母に栄耀を感じさせなければならない。先祖の名誉をかがやかし、子孫をゆたかにさせなければならない。）

4. 《三字経》における經典書籍と中国文化

（1）、「経」、「子」、「史」学問系統について

《三字経》では学問をする人は中国文化の宝庫である「経」、「子」、「史」の經典書籍を読まなければならないと教えている。

44. 為学者、必有初。小学終、至四書²⁷⁾。

（学問をするには必ず初めがある。まず《小学》を読み終え、その次に「四書」に取り組んでいくのである。）

45. 孝経通、四書熟。如六経、始可読²⁸⁾。

（孔子の《孝経》に通暁し、「四書」を熟読して、その次に「六経」と呼ばれる書籍を読まなければならないのである。）

46. 経既明、方読子。撮其要、記其事²⁹⁾。

（「六経」の内容が理解できたら、その次に「諸子」と呼ばれる書籍を読むのである。読みながらその要点をメモにとり、その内容を記憶しなければならないのである。）

47. 経子通、読諸史。考世系、知終始³⁰⁾。

（「経」と「諸子」に通じたら、その次に「諸史」を読まなければならない。歴代の系譜を調べ、王朝交替の歴史を覚えていくのである。）

（2）、「四書」について

《三字経》では「四書」と呼ばれる《論語》、《孟子》、《大学》、《中庸》の書籍の要点を紹介し、学ぶことを勧めている。

48. 論語者, 二十篇。群弟子, 記善言。

(《論語》は、二十篇から構成されている。孔子の弟子たちが孔子の話した名言を記したものである。)

49. 孟子者, 七篇止。講道德, 説仁義³¹⁾。

(《孟子》は七篇から構成され、道德と仁義を説いている。)

50. 作中庸, 子思筆。中不偏, 庸不易³²⁾。

(《中庸》を作ったのは、孔子の孫子思である。その説くところは物事を行うには公正で偏らず、激しく変わることがないようにしなければならないことである。)

51. 作大学, 乃曾子。自修齊, 至平治³³⁾。

(《大学》を作ったのは孔子の弟子曾子である。身を修め、家を和やかにまとめることから、天下を平定し国家を治めるに至る道理や方法を説いている。)

(3), 「六経」について

《三字経》では「六経」と呼ばれる《詩経》, 《尚書》, 《易経》, 《礼記》, 《周礼》, 《戴礼》, 《春秋》の書籍の要点を紹介し、学ぶ事を勧めている。

52. 詩書易, 礼春秋。号六経, 当講求。

(《詩経》, 《尚書》, 《易経》, 《礼記》, 《周礼》, 《戴礼》, 《春秋》は「六経」と呼ばれ、これらの書物を良く読み、研究しなければならない。)

53. 有連山, 有歸藏。有周易, 三易詳³⁴⁾。

(《易経》には《連山》があり、《歸藏》があり、《周易》がある。この「三易」は「易」について詳しく論じている。)

54. 有典謨, 有訓誥, 有誓命, 書之奥³⁵⁾。

(《尚書》には「典」「謨」「訓」「誥」,

「誓」「命」の項目があり、その内容は奥深い。)

55. 我周公, 作周礼, 著六官, 存治体³⁶⁾。

(我が周公は、《周礼》を作り、周王朝の「六官」制度を記録して、国家を治める綱領を残した。)

56. 大小戴, 注礼記, 述聖言, 礼楽備³⁷⁾。

(漢の戴徳と戴聖は《礼記》を編纂して注を付け、聖人の言葉を記録し、古代の礼楽制度をここに揃えた。)

57. 曰国風, 曰雅頌, 号四詩, 当諷詠³⁸⁾。

(《詩経》は「国風」「大雅」「小雅」, 「頌」の四つの部分に分かれ、それを四詩と称し、吟詠すべきものである。)

58. 詩既亡, 春秋作。寓褒貶, 別善惡³⁹⁾。

(《詩経》が散逸してしまい、孔子は史書の《春秋》を著し、そこに歴史人物の褒貶を寓し、善惡を区別した。)

59. 三伝者, 有公羊, 有左氏, 有穀梁⁴⁰⁾。

(《春秋》の注釈本には「春秋三伝」と称するものがある。《公羊伝》, 《左氏伝》, 《穀梁伝》がそれである。)

(4), 「子」について

《三字経》では「子」と称する五人の学者を紹介している。

60. 五子者, 有荀揚, 文中子, 及老莊。

(五子と称する人は即ち荀子、揚雄、文中子及び老子、莊子を指している。)

5. 《三字経》における歴史教育と中国文化

《三字経》では中国の五千年の歴史について紹介し、その分量は《三字経》全体の30%近くも占めている。歴史教育の重視を物語っている。

(1), 伝説の古代帝王

《三字経》では伝説上の「三皇」「五帝」の

帝王について紹介している。

61. 自羲農，至黃帝。号三皇，居上世⁴¹⁾。

（伏羲帝，神農帝，黃帝の三帝王は三皇と称される。三皇は上古の世にいた。）

62. 唐有虞，号二帝，相揖遜，称盛世⁴²⁾。

（唐堯帝と虞舜帝とは二帝と号する。二人はそれぞれ有能の優れた人に王位を譲り，かれらの治世時代を盛世と称する。）

（2），「夏」王朝から宋王朝まで

《三字經》では夏禹王朝から三字經成立の宋王朝までの約3500年の歴史を教えている。

63. 夏有禹，商有湯。周武王，称三王⁴³⁾。

（夏王朝の禹王，殷王朝の湯王，周王朝の武王は三王と称される。）

64. 夏伝子，家天下。四百載，遷夏社。

（夏の禹王から位を子に伝えるようになり，天下を一家とした。十七代四百年続いた後，夏王朝は滅びた。）

65. 湯伐夏，国号商。六百載，至紂亡⁴⁴⁾。

（湯王は夏王朝を滅ぼし，国を商殷と号した。三十代六百年続いた後，紂王に至って滅びた。）

66. 周武王，始誅紂。八百載，最長久⁴⁵⁾。

（周の武王は紂王を誅殺し，殷を滅ぼして周王朝を開いた。周は八百年も続き，最も長い王朝であった。）

67. 周轍東，王綱墜。逞干戈，尚遊説⁴⁶⁾。

（周王朝が都を東の洛陽に遷してから，王の權威は衰え始め，やがて諸侯は戦争を始め，遊説の士が尊敬されるようになった。）

68. 始春秋，終戦国。五霸強，七雄出。

（東周には春秋と戦国の二時期に分けるが，春秋時代には五人の覇者がいたが，戦国時代には七つの強国が出現した。）

69. 嬴秦氏，始兼并。伝二世，楚漢争⁴⁷⁾。

（秦王嬴政は，始めて天下を統一し，秦王朝を開いた。位を二世に伝えたが，間もなく楚の項羽と漢の劉邦が覇権を争うこととなった。）

70. 高祖興，漢業建。至孝平，王莽篡⁴⁸⁾。

（漢の高祖劉邦が興起し，漢王朝を開いた。平帝に至って王莽が漢の帝位を篡奪した。）

71. 光武興，為東漢。四百年，終於献⁴⁹⁾。

（漢の光武帝が興起し，王莽を誅殺して漢王朝を奪還した。これを後漢と称する。漢王朝は前漢，後漢あわせて四百余年続いたが，献帝にいたって滅亡した。）

72. 魏蜀呉，争漢鼎。号三国，迄兩晋⁵⁰⁾。

（魏・蜀・呉の三国が漢の鼎を争った。この時代を三国時代と称し，やがて西晋，東晋の時代に変わった。）

73. 宋齊繼，梁陳承。為南朝，都金陵⁵¹⁾。

（西晋・東晋の後には宋・齊・梁・陳の王朝が継承した。これを南朝と呼び，いずれも都を金陵に置いた。）

74. 北元魏，分東西。宇文周，与高齊⁵²⁾。

（「南朝」政権の同時代に北方に「北朝」政権が同時に存在していた。「北朝」は北魏に始まり，後に東魏と西魏の二つに分かれていたが，西魏は宇文氏の建てた北周にとって代われ，東魏は高氏の建てた北齊にとって代わられた。）

75. 迨至隋，一土宇。不再伝，失統緒⁵³⁾。

（楊堅が南北朝を滅ぼし，天下を統一して，隋王朝を開いたが，帝位は一代しか伝わらず，帝室の天下を失った。）

76. 唐高祖，起義師。除隋乱，創国基⁵⁴⁾。

（唐の高祖李淵は義兵を起こし，隋王朝

の混乱を除きとり、国の基を固め、唐王朝を開いた。)

77. 二十伝、三百載。梁滅之、国乃改。

(唐王朝は二十代伝わり、三百年近く続いた。梁が唐を滅ぼし、国を後梁と改めた。)

78. 梁唐晋、及漢周。称五代、皆有由⁵⁵⁾。

(唐王朝の後には後梁、後唐、後晋、後漢、後周の王朝が継承した。これを五代と称する。五代王朝の興亡にはそれぞれの理由がある。)

79. 炎宋興、受周禪。十八伝、南北混⁵⁶⁾。

(宋王朝が興り、後周から帝位の禪譲を受け、宋王朝を開き、十八代継承した。北宋、南宋の二時期に分かれていた。)

(3), 三字経成立以降に増補した歴史

《三字経》は宋時代の1200年代に成立したと言われている。成立以降の歴史は清の時代に増補された。

80. 遼与金、帝号紛。迨滅遼、宋犹存⁵⁷⁾。

(宋王朝の同時代に北方には「遼」と「金」の政権が同時に存在し、別の帝号を称していた。「金」が「遼」を滅ぼした後に宋王朝が尚続いていた。)

81. 至元興、金緒歇。有宋世、一同滅⁵⁸⁾。

(元王朝の興起に至り、「金」政権が終焉し、南宋も同様に元に滅ぼされた。)

82. 莅中国、兼戎狄。九十年、国祚廢。

(元王朝は中国に入り、中国周辺の少数民族を併合していた。元は九十年存続してから滅亡した。)

83. 明太祖、久親師。伝建文、方四祀⁵⁹⁾。

(明の太祖朱元璋は長期にわたり自ら兵士を率いて戦った。孫の建文に位を譲ったが、僅か四年しか在位しなかった。)

84. 廿二史、全在茲。載治乱、知興衰。

(二十二史の概略は全てここに示されている。史書には治乱の過程が記録されており、史書を読むことにより王朝興亡の所以を知ることができる。)

(4), 史書の読み方について

85. 読史者、考実録。通古今、若親目。

(史書を読む人は、実録を調べなければならない。古今の歴史事件に通じ、目の当たりに見るようにしなければならない。)

86. 口而誦、心而惟。朝於斯、夕於斯。

(史書の読書をする時には、口に唱えて暗誦し、頭で思索しなければならない。朝も夜も読書に励まなければならないのである。)

6. 《三字経》における自然科学知識と宗教

(1), 数字、季節、方向、動植物

87. 一而十、十而百。百而千、千而万。

(一から十、十から百、百から千、千から万に数える。)

88. 曰春夏、曰秋冬。此四時、運不窮。

(一年に春夏秋冬があり、この四つの季節は廻り、永遠に窮まらない。)

89. 曰南北、曰西東。此四方、応乎中。

(南方・北方・西方・東方の方向があり、この四方は皆中央に対応しているのである。)

90. 稻粱菽、麦黍稷。此六穀、人所食。

(稲・粟・豆・麦・糯黍・粳黍の穀物があり、この六穀は人が食べるものである。)

91. 馬牛羊、鶏犬豕。此六畜、人所飼。

(馬・牛・羊・鶏・犬・豚の動物があり、

この六畜は人が飼うものである。)

(2), 宇宙, 哲学, 宗教, 音楽

92. 三才者, 天地人。三光者, 日月星。

(三才とは天・地・人を指し, 三光とは, 日・月・星を指すのである。)

93. 曰水火, 木金土。此五行, 本乎数⁶⁰⁾。

(水・火・木・金・土は五行と言い, この五行は万物生成の根本であり, 天理に基づいているものである。)

94. 曰喜怒, 曰哀懼, 愛惡欲, 七情具。

(人には喜び, 怒り, 哀憐, 怖がり, 愛慕, 恨み悪, 欲望の七情がそなわっている。)

95. 匏土革, 木石金, 糸与竹, 乃八音。

(匏, 土, 革, 木, 石, 金, 糸, 竹は, 八種類の楽器である。)

7. 《三字経》のまとめ

上述のように《三字経》は僅か1128字しかなかった識字啓蒙教材であるが, 内容的には中国の三千年以上の歴史, 中国の代表的な經典書物, 中国の儒教思想, 道德倫理などが網羅的に組み込まれているのが実に素晴らしい。最小限の漢字でこれだけ盛り沢山の内容が収録されている書物としてはこれしかない最高のものであると言っても過言ではない。内容的にだけでなく構造的にも非常に自然的に論理的に構成されている。成立後800年衰えることなく売れ続け, 愛読されてきた理由は上述の分析によって理解できる。《三字経》の魅力はまさにここにある。私は, ここに改めて提起し強調したいのが, この《三字経》が構造的にとっても巧みに構成され, 基本的な漢字が早く覚えらるることではなく, この識字啓蒙教材は, 中国の伝統思想, 儒教倫理, 価値観, 歴史などの中国文化を知らず

知らずのうちに幼い子供たちに伝承させ, 植え付けさせていることである。私は, チャイニーズが中国本土にしようと, 甚だ地球の遠い所にしようと, 中国の文化を保っているのが識字啓蒙教育を行うときに中国の伝統思想, 儒教倫理, 価値観, 歴史などが教えられたからだと考えている。

一方, 古代中国には文字を知らない文盲がかなりいた。しかし, 彼らも儒教倫理などをちゃんと身につけているはずだ。彼らが身につけた儒教倫理, 価値観, 伝統思想などは文字によるものではなく, 日常生活や口頭伝承によるものだと思う。そういう意味からいえば, 《三字経》は識字啓蒙教材として作ったものであるが, おそらく儒教倫理, 文化教養などの口頭伝承教材としても使われたと考えられる。従って, 《三字経》は識字啓蒙教材としてだけでなく, 口頭伝承教材としても使われ, これによって, 中国の伝統思想, 儒教倫理, 価値観, 歴史などの文化が伝承されているのである。

しかし, 《三字経》に書かれている中国の伝統思想, 儒教倫理, 価値観, 歴史などが批判された時期があった。これは極左思想が主流となっていた時期のことである。今, 《三字経》が再び肯定され, 評価されつつある。それだけでなく, 《三字経》のブランド品を利用して, 伝統思想や文化などを評価・伝承しながら, 新思想, 新価値観などを植付ける努力もしている。90年代から新三字経や類型三字経が大量に刊行されたのがその表れである。

例えば, 《新三字経》では次のような内容も取り入れている。

「毛沢東, 世敬仰。新中国, 立東方。」

(毛沢東は人々が尊敬する人物で, 新中国を作り, それを東方に立たせている。)

「鄧小平，勇開創。施改革，行開放。」

(鄧小平は勇んで創造に勤め，改革政策を実施し，開放路線を貫いた。)

「人心齊，国運昌。求統一，奔富強。」

(人々が心をつにして，国を繁盛に作り上げている。台湾の統一を求め，富強の道を歩む。)

最新の社会動向や政治思想などを取り入れているのである。

注

- 1) 「三字經」についての研究は成立論的な研究，漢字啓蒙教育的な研究，内容的な研究など多種多様なものがある。例えば，教育史的な研究を例にしてみれば，<http://homepage3.nifty.com/sanjikyo/>によれば，次のようなものがある。
張志公『伝統語文教育初探』上海教育出版社1964年。村上嘉英「三字經について」『天理大学学报』第七十八輯1972年。吉田寅「『三字經』と入華宣教師の中国語布教書」『立正史学』第73号1993年。吉田寅「中国の童蒙教育書『三字經』の資料的考察」『立正大学東洋史論集』第7号1994年。張隆華・曾仲珊『中国古代語文教育教育史』四川教育出版社1995年。于吉文「中国の識字教育の問題点に関する分析」『中国研究月報』1995年5月号。浦衛忠『中国古代蒙学教育』中国城市出版社1996年。王志民・黄新憲『中国古代学校教育制度考略』首都師範大学出版社1996年。熊承滌『中国古代学校教材研究』人民教育出版社1996年。山下剛「中国の青少年向け読本『新三字經』について - 日本における外国語教育との関連で - 」『東北薬科大学一般教育関係論集』第10号1996年。大原信一『中国の識字運動』東方書店1997年。大原信一「中国の新民主主義革命期に刊行された新三字經について」『東洋研究』第123号1997年。井出静「新旧『三字經』考」『青山国際政経論集』第49号2000年。吉田寅「中国プロテスタント宣教師の中国語研究と識字教育」『比較文化史研究』比較文化史研究会2000年。
- しかし，管見では中国文化の伝承や中国式価値観の植付けの視点からの研究はあまりなかったと考える。
- 2) 章炳麟(1869～1936)は浙江省余杭の生まれ，1897年『時務報』の記者を務め，維新運動に参加したため，指名手配され，日本に亡命。1911年『大共和日報』の主編や孫文総統府の顧問を務めた。『辞海』P2451による。『増訂三字經』章炳麟1928年重訂。劉松齡増補。民国28年，上海排印本。
- 3) 三字經研究ホームページ<http://www.homepage3.nifty.com/sanjikyo>による。
- 4) 『女三字經』，朱浩文撰，清・光緒27年(1901)刊。『仏教三字經』，明の吹万老人著，上海古籍出版社2002年。『道教三字經』，1936年易心瑩著，上海古籍出版社2002年。『医学三字經』，1804年陳念祖著，上海古籍出版社2002年。『中国歴史三字經』，柳琪著，江西人民出版社1986年。
- 5) 『本朝三字經』，江戸時代の児童教訓書，大橋若水著。「我日本，一称和，地膏腴，生嘉禾，人勇敢，長干戈。」『広辞苑』による。
- 6) 撰者不詳，耶蘇教書局，1895年。<http://homepage3.nifty.com/sanjikyo/n>による。
- 7) 撰者不詳。大南維新10年(1916年)刊。典拠：張秀民『中国印刷史』上海人民出版社，1989年。傅王應麟『三字經』に喃字(ベトナムの文字)の傍注が施されている注釈書。<http://homepage3.nifty.com/sanjikyo/n>による。
- 8) 『三字經』英訳本，シンガポール教育出版社1989年
- 9) 『新訳三字經』，黄沛榮注訳，三民書局，中華民國81年(1992)初版。
- 10) 『漫画三字經』，麦荣邦画，上海人民出版社1991年。『新三字經』，新三字經編写委員会編，広東教育出版社1995年。『品德三字經』，巢峰著，上海辞書出版社1995年。『科学三字經』，周鎮宏主編，広東科技出版社1996年。
- 11) 本論に引用している『三字經』の本文は1996年新疆青少年出版社が出版したものによる。訳文は加藤敏氏の訳を参考にした。
- 12) 竇燕山は五代(907～960)末の人，北京幽州

- 出身。儀、儼、侃、称、僖の五人の子供があり、父親の厳しい教育により、相次いで科挙に合格し、長男は「礼部尚書」、次男は「礼部侍郎」、三男は「補闕」、四男は「諫議大夫」、五男は「起居郎」に任命され、大いに名をあげた。「竇氏五龍」と称された。『三字経』、新疆青少年出版社1996年P17による。
- 13) 孟子は幼少の時に父親を亡くした。孟子の母親が孟子を教育するため、住居を三度移したと伝えられている。三度目は教育環境のよい学校のそばに引っ越したという。ある日、孟子が学校をさぼったのを見て、孟子の母親は、織っていた織物を断ち切って、学問を途中でやめてはいけなくと厳しく戒めたと伝えられている。同12)のP16による。
- 14) 項橐は春秋時代（紀元前770～紀元前476）の魯国の人、七歳の時に孔子の師を務めていたと伝えられている。11歳に死亡、「児童神」と称された。同12)のP56による。
- 15) 趙中書令の趙普（922～992）是北京幽州出身、宋の建国の功臣、964年から宋の宰相となった。学校に行く時間がなかったが、良く論語を読んでいたと伝えられている。『辞海』P2340による。
- 16) 路温舒は前漢（紀元前206～紀元25）時代の司法大臣、河北省の出身。『辞海』P2370による。公孫弘（紀元前200～紀元前121）は山東省の出身、40過ぎてから初めて『春秋公羊伝』を勉強し始めた。武帝の時丞相に任命された。『辞海』P340による。
- 17) 蘇秦（？～紀元前317）は洛陽の出身、5カ国の合従を唱え、秦に対抗する策を提唱した。後に処刑された。『辞海』P688による。
- 18) 晋時代の車胤は家が貧しくて油を買うことができなかったので、夏の夜には袋に数十匹の蛸を入れて、その光で読書をした。晋時代の孫康は貧しくて油を買うことができず、冬は雪明かりで読書をしたと伝えられている。同12)のP59による。
- 19) 朱買臣（？～紀元前115）は蘇州の出身。家が貧しく、薪売りの生活をしていたが、後に中大夫、会稽太守、丞相などに出世した。『辞海』P99による。李密（582～618）は長安の出身、「瓦岡蜂起」に参加して、後に瓦岡軍の首領となり、魏公と称していた。唐王朝成立後、唐政權に反抗したため処刑された。『辞海』P1527による。
- 20) 蘇洵（1009～1066）は四川省の出身、27歳になってから勉学に励み、後に著名な文学者となった。長男は蘇軾（蘇東坡）で、次男は蘇轍、俗に「三蘇」と称されている。同12)のP60による。
- 21) 梁灝は五代時代の生まれ、後晋の天福三年（938）から科挙試験に参加し、後漢・後周時代になっても及第しなかった。宋の太宗雍熙二年（985）82歳にてやっと及第したと伝えられている。同12)のP61による。
- 22) 李泌（722～789）は長安の出身、玄宗帝の時に皇太子の供奉官を務め、以来、肅宗、代宗、徳宗の三代に仕え、官位は丞相。『辞海』P1526による。
- 23) 蔡琰（文姬）は蔡邕の娘、夫を亡くした後、実家に戻り、董卓に捕虜にされ、南匈奴左賢王に嫁がされた。匈奴に12年間滞在した後、子供二人を匈奴に残して、曹操に迎えられ、漢に帰った。父親の業を継いで、『続漢書』の編纂に参加した。『辞海』P743による。
- 24) 劉晏（718～780）は山東省の出身、経済官僚。肅宗、代宗帝の時代に塩制度の整備や川の浚渫など20年間経済管理運営に携わった。『辞海』P1865による。
- 25) 黄香は後漢の人、湖北の出身、魏郡太守を務め、『九宮賦』などの作品を残している。『辞海』P2469による。
- 26) 孔融（153～208）は山東省の出身、孔子の32代の子孫、文学者。同12)のP20による。
- 27) 『小学』は児童学習の教材、宋の朱熹編著。「立教」・「明倫」・「敬身」・「稽古」・「嘉言」・「善行」の六巻から構成されている。『辞海』P1339による。
- 28) 『孝経』は儒教経典の一つ、18章から構成されている。孔子がその門人曾参に孝道を述べたのを曾参の門人が記録したものとされている。『広辞苑』による。「四書」は『論語』・『孟

- 子』・『大学』・『中庸』この四つの經典の總称、南宋の朱熹が『四書章句集注』を編纂したことにより、「四書」の呼び方が誕生し、以後、科挙試験の初級標準書となっていた。『辞海』P911による。「六經」、6種類の經典。『詩經』・『尚書』・『易經』・『周礼』・『戴礼』・『春秋』を指している。
- 29) 「諸子」は春秋戦国時代に現れた多くの思想家の總称。また、その学派・学説。儒家(孔子・曾子・子思・孟子・荀子)、道家(老子・列子・莊子・関尹子)、墨家(墨子・胡非子・随巢子)、法家(申不害・商鞅・慎到・韓非子)、名家、農家、縦横家、陰陽家、兵家、小説家、雑家。『広辞苑』P1297による。
- 30) 「諸史」は『漢書』・『晋書』などのような時代別の史書と、『通鑑綱目』のような通史書を指す。同12)のP40による。
- 31) 孟子(紀元前372～紀元前289)は山東省の出身。『孟子』は35377字、11編から構成される記録もあるが、現存は七編、孟子及びその弟子達が編著したものと言われている。『辞海』P1357による。
- 32) 子思(紀元前483～紀元前402)は孔子の孫。『中庸』は一卷、子思の編著、33編、3568字。同12)のP32による。
- 33) 曾子(紀元前505～紀元前436)は孔子の学生。『大学』は曾子の編著、1753字、「明德・親民・止于至善」の三綱領と「格物・致知・誠意・正心・修身・齊家・治國・平天下」の八条目から構成されている。同12)のP33による。
- 34) 『連山』は『周易』以前の古い易經の書物と伝えられている。清時代の『玉函山房輯佚書』には『連山』一卷収録しているが、誰の作か不明。『辞海』P1262による。『歸藏』は『周易』以前の古い易經の書物と伝えられている。清時代の『玉函山房輯佚書』には『歸藏』一卷収録しているが、誰の作品か不明。『辞海』P1286による。『周易』は『易經』、『易』とも呼ばれ、周時代の作品と言われている。「易」は「変易」、「簡易」、「不易」の三つの意味がある。「周」は周時代の人を意味する。故に『周易』と称する。『周易』は「經」と「傳」の二部から構成され、「經」には64卦と384爻があり、「傳」は「經」に対する解説文である。『辞海』P2404による。
- 35) 『尚書』は『書』、『書經』とも呼ばれる。「尚」は「上」と読みかえ、「上代」を意味する。『尚書』は上代以来の書、即ち上古以来の文献資料集のことである。孔子の編纂と伝えられている。『辞海』P1348による。
- 36) 『周礼』は『周官』、『周官經』とも呼ばれ、周王朝の官制及び戦国時代各国の制度を記録した書物で、周公の編著と伝えられている。『辞海』P240による。
- 37) 「大戴」は前漢時代の儒者「戴德」を指し、「小戴」は前漢時代の儒者「戴聖」を指す。戴聖は戴德の甥に当たる。大戴の『礼記』は85篇、小戴の『礼記』は49篇から構成されている。同12)のP36による。
- 38) 『詩經』は中国の最も古い詩集である。春秋時代の成立、「風」・「雅」・「頌」の部に分けて305篇から構成されている。孔子の校訂と伝えられている。『辞海』P477による。
- 39) 『春秋』は編年体春秋時代の史書。紀元前722年から紀元前481年までの242年間の編年体記録。孔子の編著と伝えられている。『辞海』P1952による。
- 40) 『左伝』は『春秋左氏伝』、『左氏春秋』とも呼ばれ、春秋時代の左丘明の編著と伝えられている。史実に基づいて『春秋』を解釈しているのが特徴である。『辞海』P184による。『公羊伝』は『春秋公羊伝』、『公羊春秋』とも呼ばれ、『春秋』の解釈本、戦国時代の公羊高の編著と伝えられている。最初には口頭で伝承され、漢時代の初めにはじめて書物としてまとめられたと伝えられている。『辞海』P340による。『穀梁伝』は『春秋穀梁伝』、『穀梁春秋』とも呼ばれ、『春秋』の解釈本、戦国時代の穀梁赤の編著と伝えられている。最初には口頭で伝承され、前漢時代にはじめて書物としてまとめられたと伝えられている。『辞海』P1857による。
- 41) 伏羲氏は伝説では女媧氏兄弟と結婚して人間を作り、人類の始祖とされている。『辞海』P262による。神農氏は炎帝とも呼ぶ。黄帝は伝説では中原各氏族の祖先とされ、炎帝の侵攻を打ち

- 破ったと伝えられている。
- 42) 唐尧は伝説では父系氏族社会後期の部族連盟首領とされ、舜を自分の後継者として指定し、禪譲と称された。『辞海』P794による。
- 43) 禹は伝説の古代部族連盟の首領。湯は武湯とも呼ばれ、商殷王朝の創立者。周武王は西周王朝の創立者。
- 44) 商殷王朝、紀元前17世紀～紀元前11世紀、30代目の紂王時代に滅びた。
- 45) 周王朝、紀元前11世紀～紀元前256年、37代続いた。
- 46) 周平王は周王朝13代目の王、紀元前770年王位継承、後、東の洛陽への遷都を行った。
- 47) 秦の始皇（紀元前259～紀元前210）は紀元前221年に六カ国を滅ぼし、天下を統一した。項羽（紀元前232～紀元前202）は劉邦とともに秦を滅ぼし、楚王となった。後、劉邦と覇権を争い、自刎。劉邦（紀元前247～紀元前195）は秦末に兵を挙げ、漢王となった。項羽を破って天下を統一し、漢王朝を開いた。
- 48) 王莽（紀元前45～紀元23）は元帝の皇后の弟の子、12代目の平帝を毒殺し、国を奪って自分が皇帝の位に就いた。
- 49) 光武帝（紀元前6～紀元57）は湖北に兵を挙げ、王莽を破り、政権を奪還し、紀元25年に帝位に就き、漢室を再興した。
- 50) 魏（220～265）は曹魏とも称され、198年曹操が献帝を奉じて天下の実権を握って魏王となり、その子は帝位に就いた。蜀（221～263）は劉備が蜀地に建てた国。呉（222～280）は孫権が江南に建てた国。西晋は265～317年、東晋は317～420年。
- 51) 南北朝は420～589年。南朝では宋420～479年、齊479～502年、梁502～557年、陳557～589年。
- 52) 北朝では北魏386～534年、東魏534～550年、北齊550～577年、西魏535～556年、北周557～581年。
- 53) 隋王朝（581～618）は文帝楊堅が立てた政権。
- 54) 唐王朝（618～907）は高祖李淵が開いた王朝。
- 55) 後梁は907～923年、後唐923～936年、後晋936～946年、後漢946～950年、後周950～960年。
- 56) 宋王朝（960～1279）は太祖趙匡胤が開いた王朝。北宋は960～1127年、南宋は1127～1279年。
- 57) 北方の遼は907～1125年、金は1115～1234年。
- 58) 元王朝（1271～1368）はモンゴル帝国第五代の世祖フビライが南宋を滅ぼして建てた王朝。
- 59) 明王朝（1368～1644）は太祖朱元璋が元の支配を倒して建てた王朝。
- 60) 五行は木・火・土・金・水の五つの元素を指し、万物組成の元素とする。木から火を、火から土を、土から金を、金から水を、水から木を生ずるを相生という。木は土に、土は水に、水は火に、火は金に、金は木に剋つを相剋という。